

留学体験談

理学部 水沼正昂

ドイツのミュンスター大学に留学していた水沼です。ドイツでの留学に関して、様々な側面からの報告をさせていただきます。

まず、自分は今回の留学の前までに短期留学で2回ドイツに行っているのですが、ドイツでの生活についてや友人関係などでは不安は全くなく、治安やその他のことも特に気にすることなく生活することができました。そのことを前提に書かせていただきます。

今回の留学では、語学だけでなく、より専門的な分野を学習することを目的としていましたので、留学先大学の専門科目の講義に参加させていただいたり、大学院の講義にも顔を出させていただきました。基本的にはわからないことだらけでしたが、専門的な知識をつけることができました。生活環境やそもそもの講義のスタイルなどが日本とは全く異なるためか、学生の勉強のスタイルも日本のそれとは異なっていたように思います。たとえば500人がいるような講義中であっても、学生が疑問を感じれば挙手をして積極的に発言をして疑問を解決していくことがよいとされていました。

授業の日程などに関しては、日本とほぼ変わりませんでした。ただ、ミュンスター大学は、キャンパスが街中に点在していたため、授業間の15分の休憩時間でキャンパスを移動しないといけないという大変さがありました。授業の課題に関して、語学の授業では毎日出されていましたが、専門の授業に関しては、科目にもよりますが3回に1回程度の割合で出ていたと思います。内容は有機反応合成における反応機構を推定してくるなどの簡単な内容が多かったです。そのため、基本的には語学・専門の講義後に図書館などに行き、そこで復習かつ課題を済ませる、ということが多かったです。

また、勉強だけでなく課外でのスポーツの活動やERASMUSのプログラムでのイベントなどにもよく参加していました。ERASMUSとは、EU諸国間の交換留学プログラムのようなもので、各大学に設置されている支部が毎週様々なイベントを開いていました。日本ではなかなか想像ができないと思いますが、ヨーロッパでは学内にクラブが設置されていたりするほど簡単にクラブへ行くことが多いです。そのため、週末の夜などは町全体が騒がしくなったりします。また、課外でのスポーツでの活動も盛んに行われており、自分はミュンスターのソフトボールのチームに所属させていただいておりました。このチームはCollege Seriesに所属しているので本格的に楽しむことができました。

留学した時の出来事を数え上げていったらきりがありませんが、経験した中で特に印象に残っていることだけ紹介させていただきます。日本人は世界的にみて働きすぎな民族だと言われていますが、それに対してドイツ人は、悪い意味ではなく、全く働きません。日曜日などはレストランを除くすべてのスーパーやショップが閉鎖されるため、街中から人が消え去ります。この日曜日は家族でゆっくり過ごす日であるため、公園などにはピクニックに来ている家族連れを多く見かけます。また、家族だけでなく大学生も公園や湖の畔でBBQをしたりして友達と過ごしています。この時間の使い方に自分は一番驚きました。

最終的な語学力に関して、英語やドイツ語がぺらぺらにしゃべれるようになったという

ことはありませんが、留学前よりは確実に上がっていることは確かです。しかし、留学することの意味は語学力を上昇させるだけではないと思っているので、今回の留学が成功したか否かの指標にはしていません。留学の本当の意味は、現地での生活を通して現地人と触れ合い、文化の違いを理解してくることだと思っています。この点においては満点とはいかないまでも、合格点に達するぐらいには成功したと思っています。

留学中は簡単にはいかないことがたくさんあります。語学面では当たり前ですが、他にも文化的な違いがたくさんあり、苦勞することがたくさんあります。しかしそれを乗り越えることでまた違った世界が見えてくるものだと思っています。既存の価値観にとらわれない新しい価値観を身につけ、今後の人生において絶対にいい方向に行くはずなので、ぜひみなさん留学に行ってみてください。

